

# QC PRO DB サーバ向け Windows11 アップデート手順書

QC PRO CS をご使用の場合は対象外となりますので、弊社サポートサービスへお問合せください。

## 目次

1. Windows11 アップデート前の準備.....	1
1-1. QC PRO データベースのバックアップ.....	1
1-2. SQL Server をアンインストールする.....	2
2. Windows11 へのアップデート.....	8
3. SQL Server の再インストール.....	9
3-1. SQL Server 2019 をインストールする.....	9
3-2. SQL Server に他 PC から接続できるように設定する.....	12
3-3. SQL Server Management Studio のインストール.....	14
4. データベースを復旧する.....	15

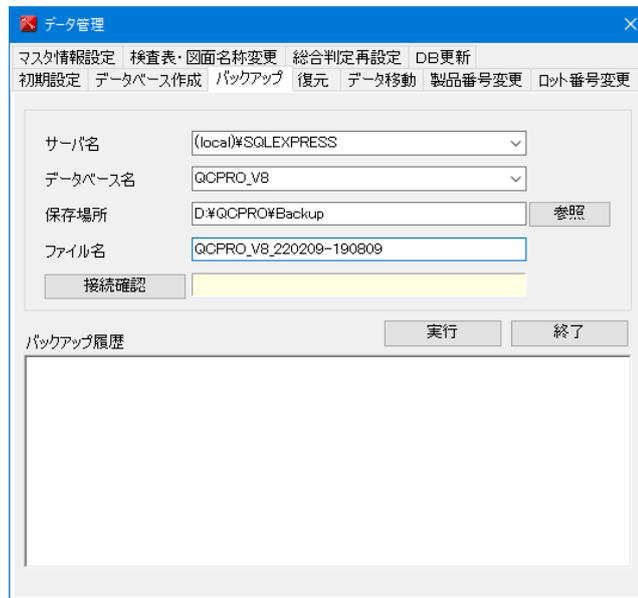
# 1. Windows11 アップデート前の準備

SQL Server をインストールしているパソコンをそのまま Windows11 にアップデートすると、SQL Server が起動しなくなるケースが確認されています。

QC PRO データベースを構築しているパソコンを Windows11 にアップデートする場合、この問題を回避する為に以下の手順でアップデート実行することを推奨します。

## 1-1. QC PRO データベースのバックアップ

- (1) QC PRO のデータ管理を起動し、バックアップを実行します。



[バックアップ] の画面に必要項目を入力し、[実行]ボタンをクリックするとバックアップ作成が開始します。

**「バックアップが完了しました」というメッセージがポップアップ表示されたら、保存場所にバックアップファイルができていることを確認してください。**

※同じ SQL Server で運用しているデータベースが QCPRO データベース以外もある場合は SQL Server Management Studio 等を使用してバックアップファイルを作成してください。

- (2) ディスク空き容量の確認

バックアップファイル作成後に、Cドライブの空き容量が**20GB以上**あることを確認します。空き容量が不足している場合は、不要なファイルを削除する等により、20GB以上に増やしてから以降の作業を行ってください。

## 1-2. SQL Server をアンインストールする

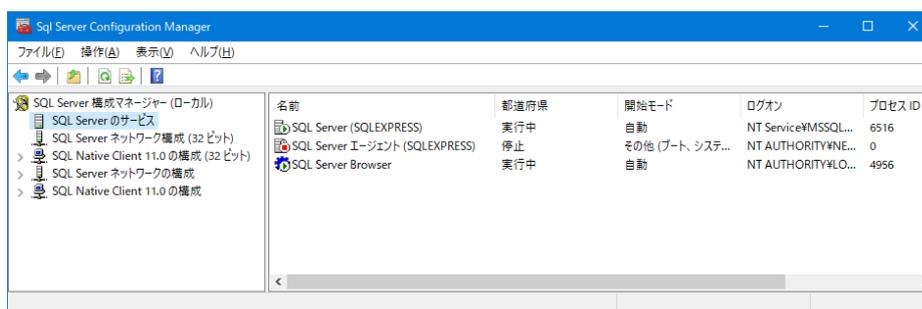
### (1) SQL サービスの停止

#### ① SQL Server 構成マネージャーを起動します。

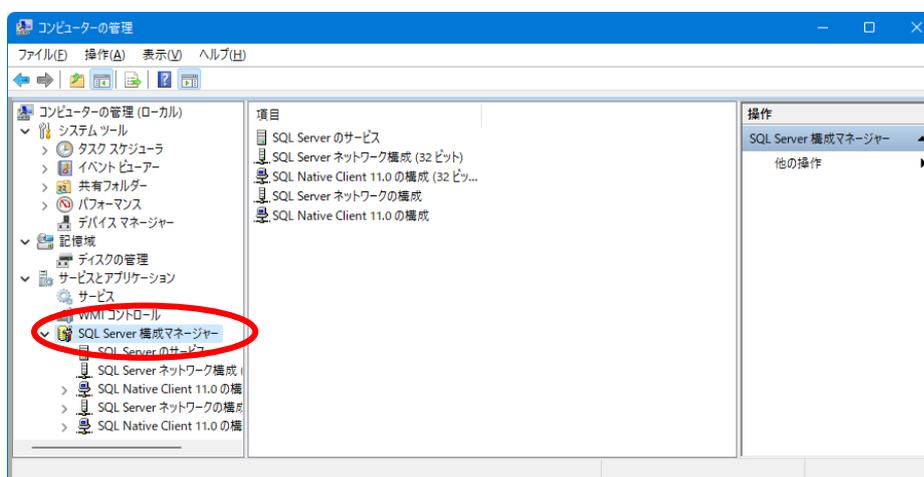
スタートメニューをスクロールし、[Microsoft SQL Server 20XX](\*)→[SQL Server 構成マネージャー]を選択します。(\*1 “20XX”にはバージョンを示す数値が入ります。)

スタートメニューに見つからない場合は、次の操作で起動します。

- ・キーボードのWindows ロゴキーを押しながら「R」キーを押します。
- ・[ファイル名を指定して実行]画面に「SQLServerManager15.msc」を入力し実行します。

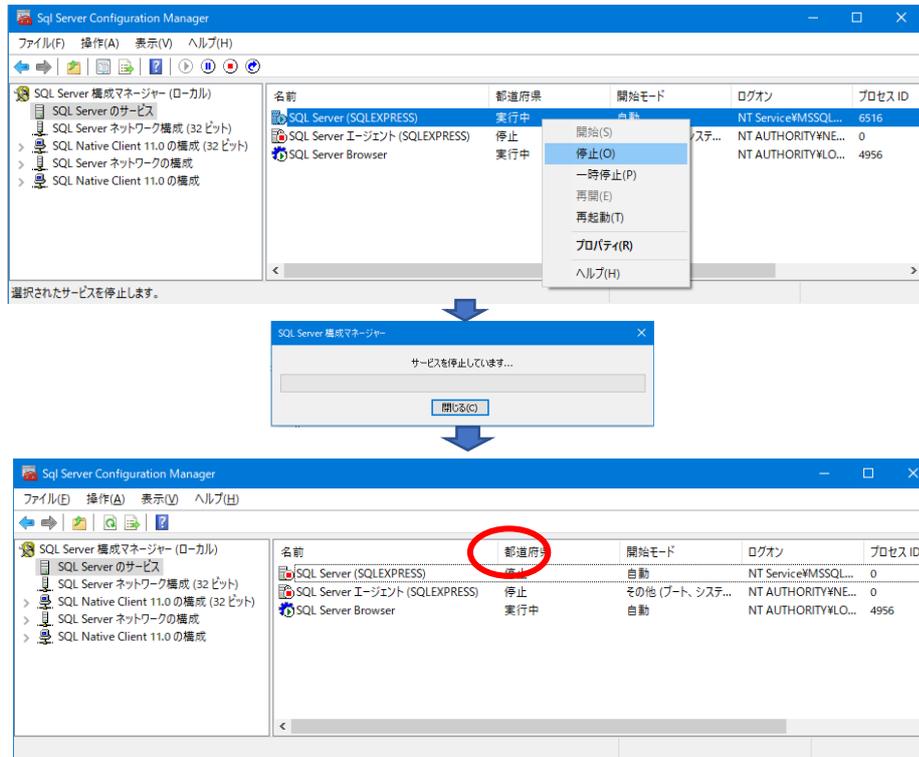


上記の方法でも見つからない場合は、スタートメニューから[Windows ツール] →[コンピュータの管理]を選択して、コンピュータの管理を起動します。そして、画面左のツリーから[サービスとアプリケーション]→[SQL Server 構成マネージャー]を選択します。



#### ② SQL Server を停止します。

- ・画面左のツリーから [SQL Server のサービス]を選択し、右側の[SQL Server]の状態を確認します。“実行中” になっていたら、[SQL Server]を右クリックして[停止]を選択します。



[SQL Server]の状態が“停止”に変わることを確認します。

- ・ [SQL Server Browser] が“実行中”であれば、同様の操作で停止します。
- 他にも“実行中”のSQL サービスがあれば、全て停止します。

(2) インストールされた SQL Server のアプリを確認する。

Windows スタートボタンを右クリックし、表示メニューから[アプリと機能]を選択して、[アプリと機能]画面を表示します。

中断の[このリストを検索]と表示されたボックスに「SQL Server」と入力すると、SQL Server のアプリが見つかります。



(3) SQL Server をアンインストールする。

- ① [アプリと機能]のアプリ一覧から [Microsoft SQL Server 20XX (64-bit)]をクリックすると下記のように[アンインストール]ボタンが表示されます。



- ② [アンインストール]ボタンをクリックすると、ユーザーアカウント制御のメッセージ画面が表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。

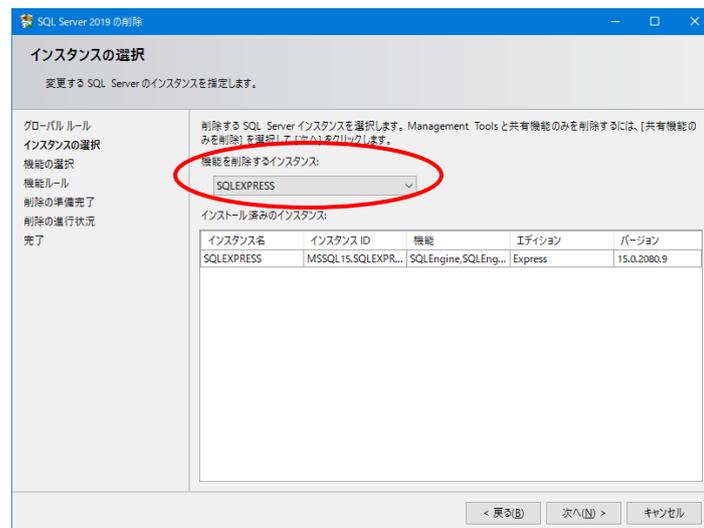


- ③ 下記のダイアログから[削除]をクリックします。



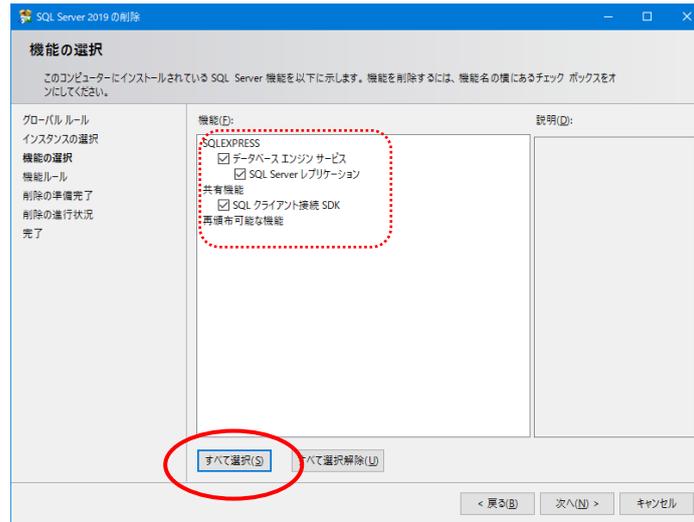
- ④ 表示される[SQL Server の削除]のダイアログ画面に従って、アンインストールを開始します。

【インスタンスの選択】 アンインストールするインスタンスを選択し、[次へ(N)]ボタンをクリックします。

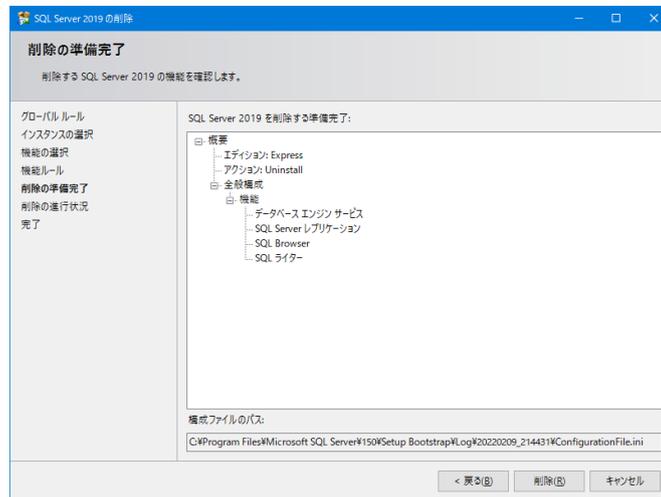


⑤ 【機能の選択】 機能を全てチェック(\*2)して、[次へ(N)]ボタンをクリックします。

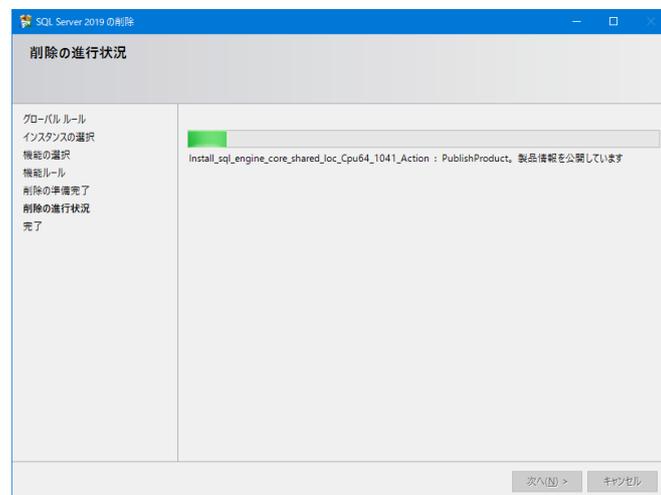
\*2) [すべて選択(S)]ボタンをクリックすると機能が全てチェックされます。



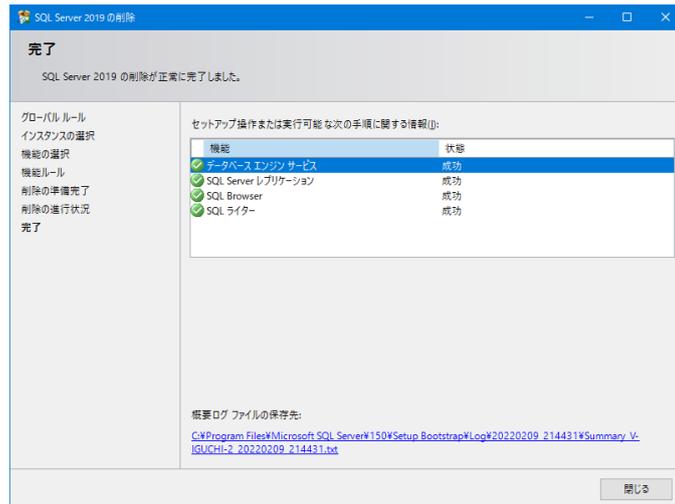
⑥ 【削除の準備完了】と表示されたら、[削除(R)]ボタンをクリックします。



⑦ 【削除の進行状況】が表示され、しばらくの間待ちます。



- ⑧ 画面が更新され、「SQL Server20XX の削除が正常に完了しました」と表示されたら、[閉じる]ボタンをクリックして、ダイアログを終了します。



- (4) SQL Server の関連アプリをアンインストールする。

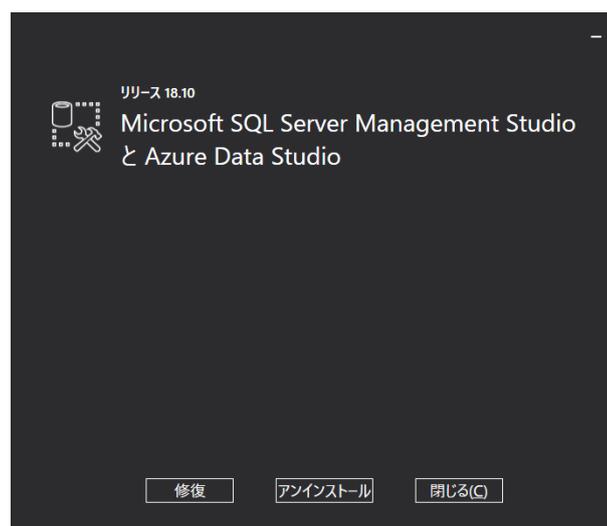
#### 【SQL Server Management Studio】

SQL Server Management Studioが別途インストールされていれば、アンインストールします。

[アプリと機能]から [Microsoft SQL Server Management Studio]をクリックすると下記のように[アンインストール]ボタンが表示されますので、これをクリックします。

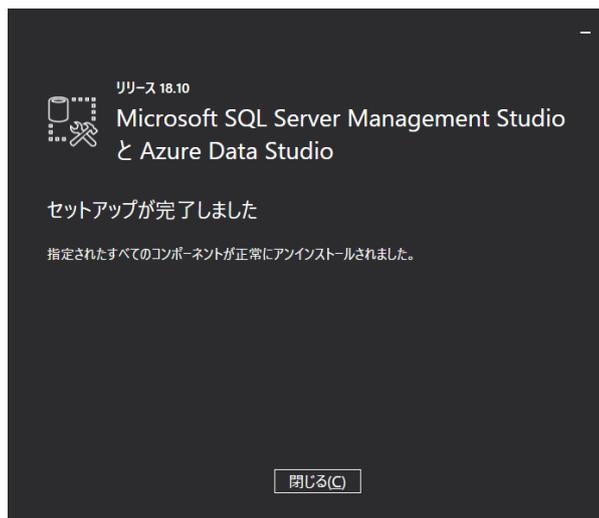


ユーザーアカウント制御の画面が表示され、[はい]ボタンをクリックすると下記画面が開きます。



[アンインストール]ボタンをクリックすると、アンインストールが開始します。

下記画面が表示されたら、アンインストール完了です。



#### 【SQL Server セットアップファイル】

[アプリと機能]から [Microsoft SQL Server 20XX Setup]をクリックすると[アンインストール]ボタンが表示されますので、これをクリックします。



ユーザーアカウント制御の画面が表示され、[はい]ボタンをクリックするとアンインストールが開始します。プログレスバーが自動で閉じられたらアンインストール完了です。

#### 【SQL Server Native Client】

#### 【SQL Server 用ブラウザー】

先にアンインストールした項目と一緒にアンインストールされますが、[アプリと機能]に残っていた場合はアンインストール実行します。

#### 【SQL Server T-SQL 言語サービス】

[アプリと機能]から [Microsoft SQL Server 20XX T-SQL 言語サービス]をクリックすると[アンインストール]ボタンが表示されますので、これをクリックします。



ユーザーアカウント制御の画面が表示され、[はい]ボタンをクリックするとアンインストールが開始します。プログレスバーが自動で閉じられたらアンインストール完了です。

## 【ドライバー】

[アプリと機能]に [Microsoft ODBC Driver 17 for SQL Server]、[OLE DB Driver for SQL Server]がある場合、これをアンインストールします。



ユーザーアカウント制御の画面が表示され、[はい]ボタンをクリックするとアンインストールが開始します。プログレスバーが自動で閉じられたらアンインストール完了です。

## 【その他】

[アプリと機能]に [Microsoft SQL Server vNext CTP1.6用 Microsoft System CLR Types] や [Microsoft SQL Server System CLR Types] がある場合、これらもアンインストールします。

※[アプリと機能]に表示されないアプリについては、上記操作は不要です。

## (5) コンピューターを再起動する。

アンインストールが全て完了したら、コンピューターを再起動してください。

## 2. Windows11 へのアップデート

### (1) Window11 への更新作業

Windows Update から、Windows11 への更新を実行します。

### (2) ディスク空き容量の確認

Windows11 への更新が完了した後、Cドライブの空き容量が**20GB以上**あるか再度確認します。  
(アップデートにより、ディスク使用量が増えていると想定されます。)  
空き容量が不足している場合は、不要なファイルを削除する等により、20GB以上に増やしてから以降の作業を行ってください。

### 3. SQL Server の再インストール

#### 3-1. SQL Server 2019 をインストールする

Windows11に対応している Microsoft SQL Server のバージョンは、SQL2017、SQL2019 です。  
ここでは、SQL Server 2019 を使用します。

- ① SQL Server 2019 のインストーラが格納されたフォルダの中の SETUP.EXE を実行すると、下記のユーザーアカウント制御の画面が表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。

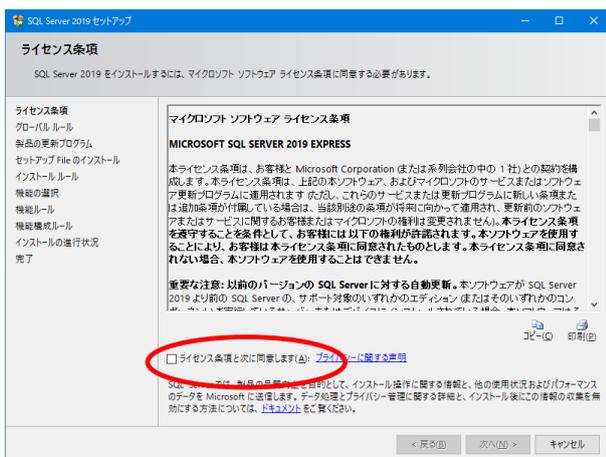


- ② SQL Server インストールセンター画面が開いたら、[SQL Server の新規スタンドアロンインストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加] のアンカーをクリックして、インストールを開始します。



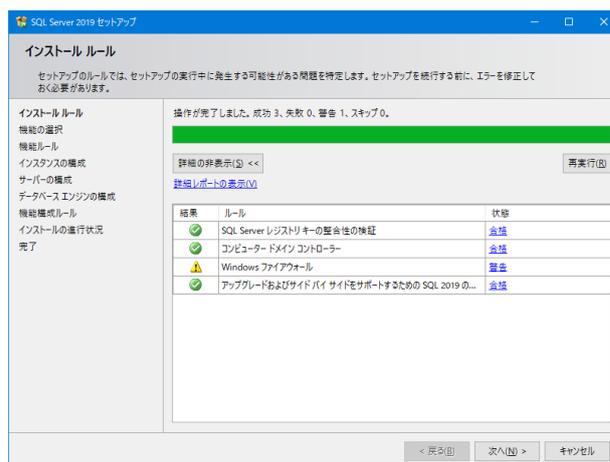
③ SQL Server セットアップ画面が開いたら、ダイアログに沿って入力を進めます。

### 【ライセンス条項】



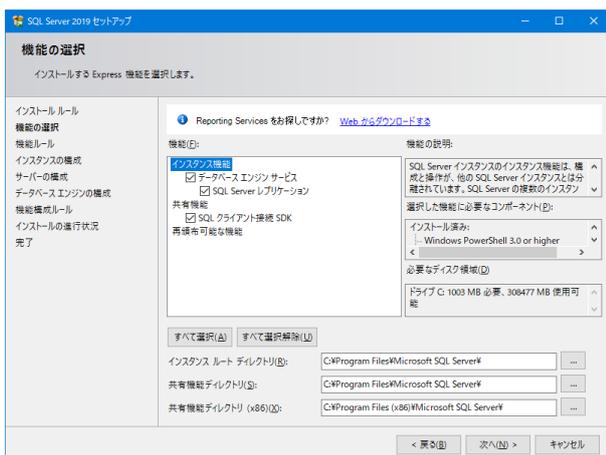
「ライセンス条項に同意します」をチェックして、[次へ(N)]ボタンをクリックします。

### 【インストールルール】



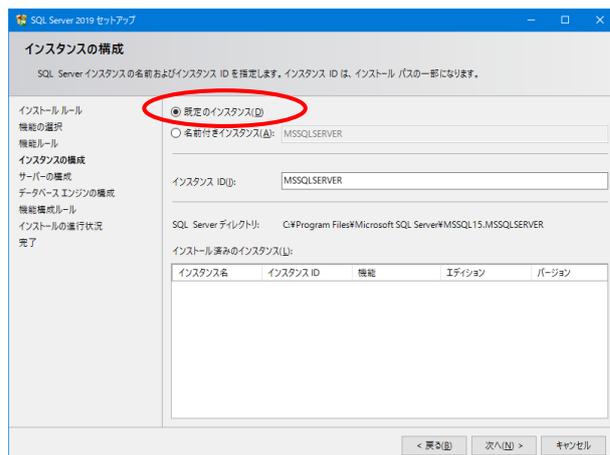
セットアップの結果が表示され、エラーがなければ、[次へ(N)]ボタンをクリックします。

### 【機能の選択】



インスタンス機能にチェックが入っていることを確認して、[次へ(N)]ボタンをクリックします。

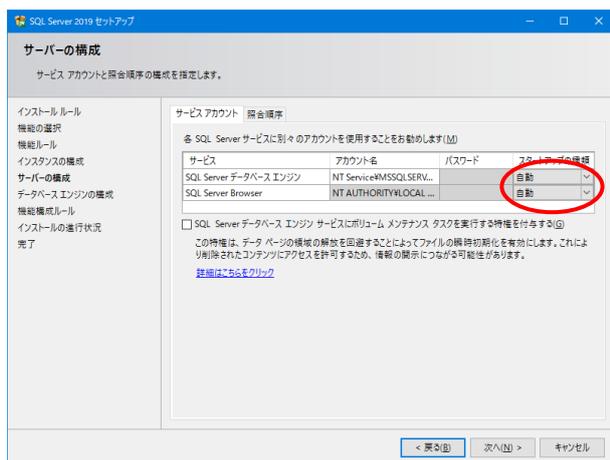
### 【インスタンスの構成】



[既定のインスタンス]にチェックを入れ(\*3)、[次へ(N)]ボタンをクリックします。

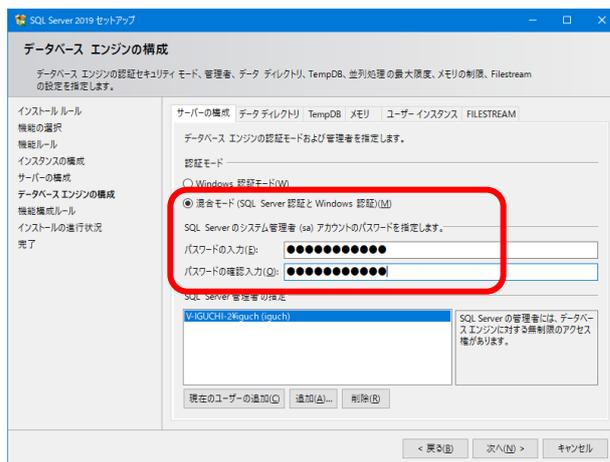
\*3) 既に SQL Server がインストールされている場合は、[名前付きインスタンス]の方にチェックを入れ、インスタンス名およびインスタンス ID に「QCPRO」と入力してください。

## 【サーバーの構成】



SQL Server Browser のスタートアップの種類を「自動」に変更し、[次へ(N)]ボタンをクリックします。

## 【データベースエンジンの構成】



混合モードにチェックした後、[パスワードの入力]と[パスワードの確認入力]に管理者用パスワード(\*4)を入力し、[次へ(N)]ボタンをクリックします。

### \*4)管理者用パスワード

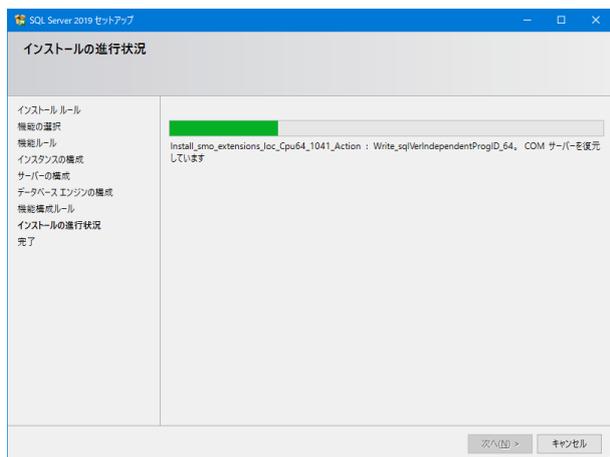
**アンインストール前の SQL Server で使用していたパスワードを設定してください。**

変更する場合は、全ての QCPRO クライアント PC で[データベース接続設定]のパスワード再設定が必要になります。

※管理者用パスワードは QCPRO の設定に必要となりますので大切に保管してください。

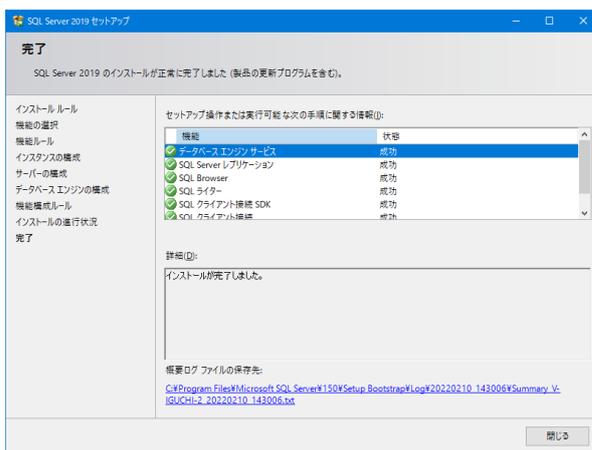
パスワードは全て半角とし、英字の大文字、小文字及び数値を含んで構成してください。

## 【インストールの進行状況】



インストールが実行される間、進捗状況が画面内のプログレスバーに表示されます。

## 【完了】



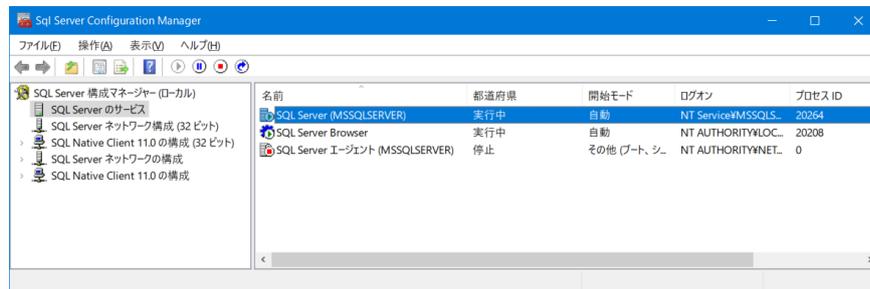
全ての機能が成功していることを確認したら、[閉じる]ボタンをクリックします。

④ SQL Server インストールセンター画面を閉じます。

### 3-2. SQL Server に他 PC から接続できるように設定する

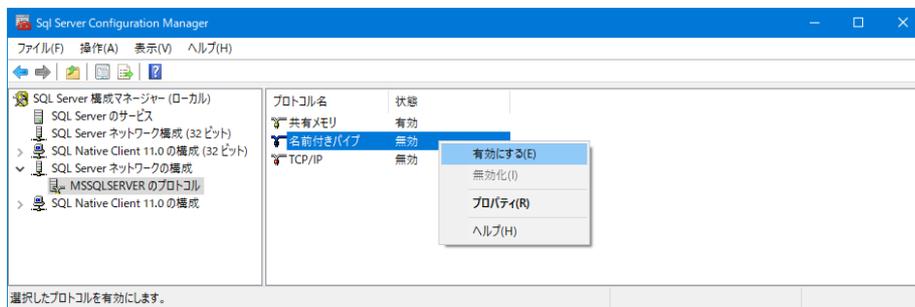
#### ① SQL Server 構成マネージャーを起動します。

スタートメニューから[Microsoft SQL Server 2019]→[SQL Server 構成マネージャ]を選択し、[Sql Server Configuration Manager]画面を開きます。

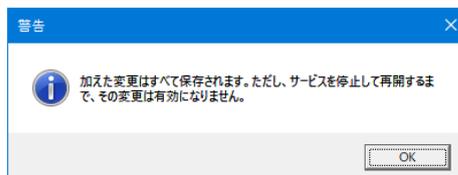


#### ② 画面左のツリーから[SQL Server ネットワーク構成]→[MSSQLSERVER のプロトコル>(\*5)を選択し、[名前付きパイプ]と[TCP/IP]を有効にします。(右クリック→有効化を選択)

\*5) “MSSQLSERVER” 部分は P. 10 の【インスタンスの構成】で設定した文字列で表示されます。

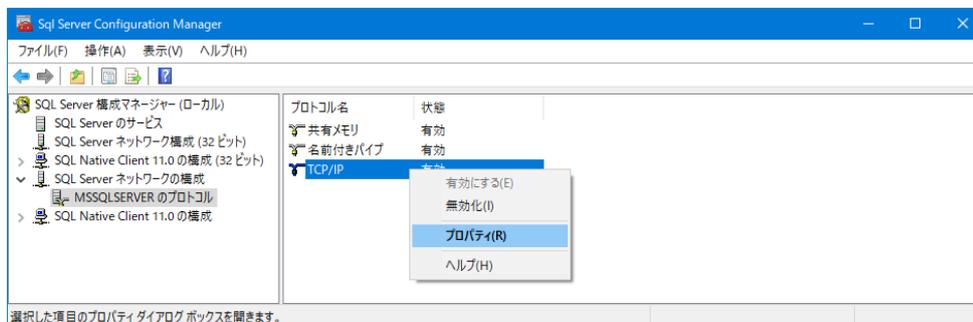


[名前付きパイプ]を右クリックして[有効にする(E)]を選択すると、下記警告画面が表示されるので[OK]ボタンをクリックします。

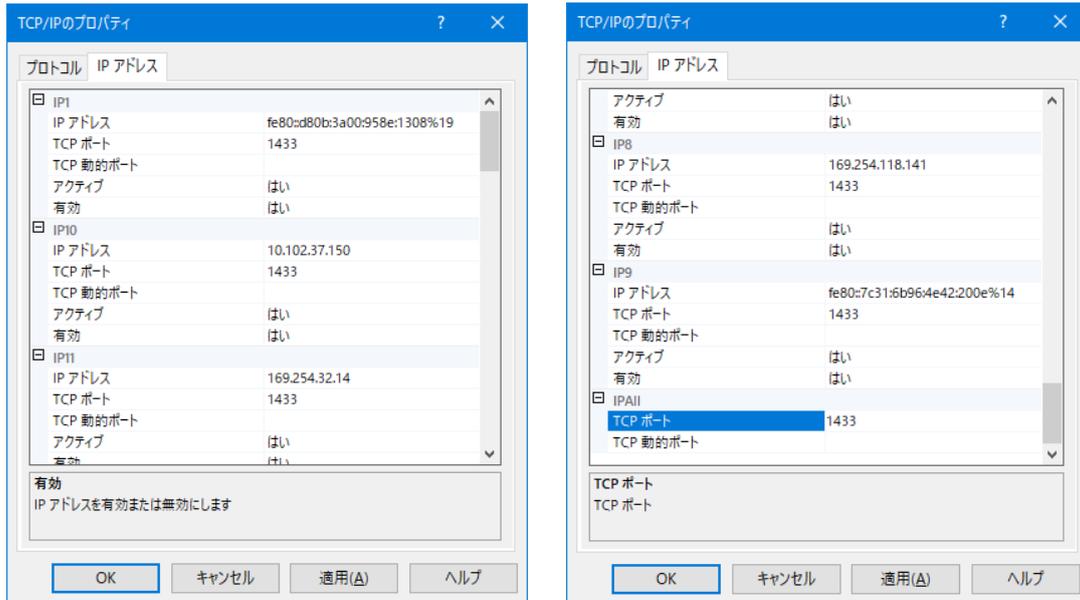


同様に[TCP/IP]も[有効にする(E)]を選択します。

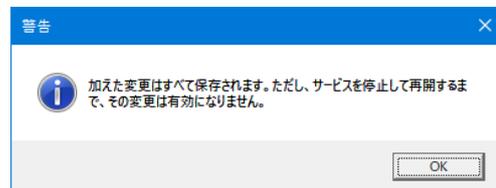
#### ③ 同一画面で [TCP/IP]を右クリックしてプロパティを選択し、TCP/IP プロパティ画面を表示します。



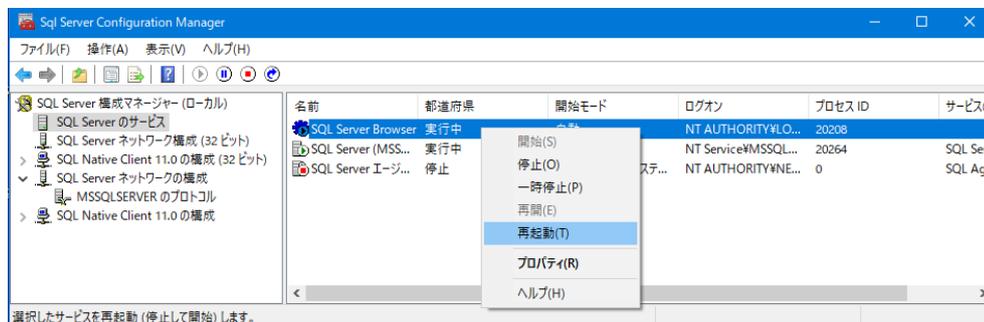
- ④ TCP/IP プロパティ画面で[IP アドレス]タブを選択し、すべての[有効]に “はい”、[TCP ポート]に “1433”を入力して、[OK]ボタンをクリックします。



右の警告画面が表示されるので[OK]ボタンをクリックして、TCP/IP プロパティ画面を閉じます。



- ⑤ [Sql Server Configuration Manager]画面の[SQL Server のサービス]で、[SQL Server]を右クリックして[再起動]を選択し、SQL サーバーを再起動します。

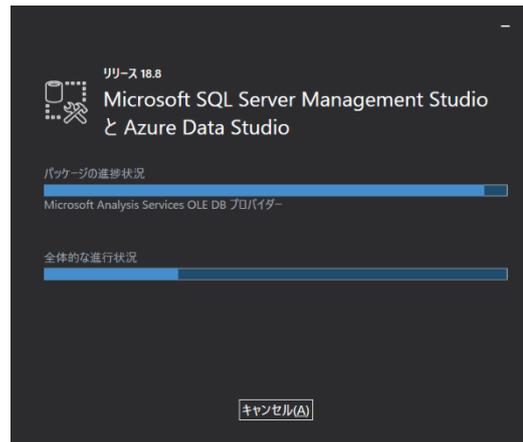


### 3-3. SQL Server Management Studio のインストール

インストールファイルを実行すると、ユーザーアカウント制御の画面が表示され、[はい]ボタンをクリックしてインストーラーを起動します。



[インストール(I)]ボタンをクリックするとインストールが開始します。



インストール後、再起動が必要な場合はコンピューターの再起動を行います。



再起動が終わるとインストール完了です。

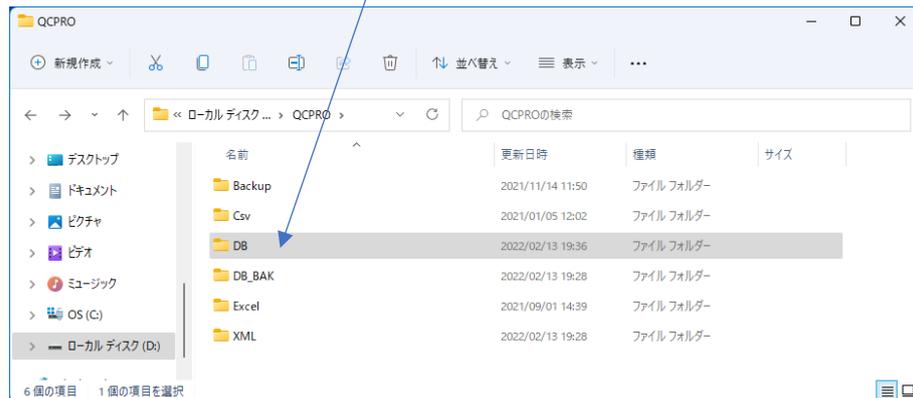
## 4. データベースを復旧する

### (1) 古いデータベースファイルを退避します

QC PRO のデータベースファイル(QCPRO\_XXX\_Data.mdf, QCPRO\_XXX\_Log.ldf)が格納されているフォルダの名前を変更します。(\*6)

例) D:¥QCPRO¥DB → D:¥QCPRO¥DB\_BAK

次に、変更前のフォルダ名で空のフォルダを作成しておきます。

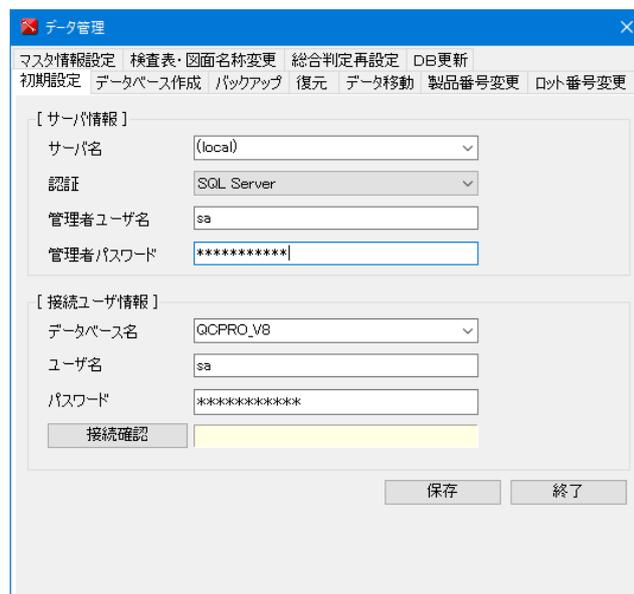


\*6) 名前変更したフォルダとその下のデータベースファイルは、以降の手順でデータベースの復元が成功するまで保存しておきます。

### (2) QC PRO データベースを復元します

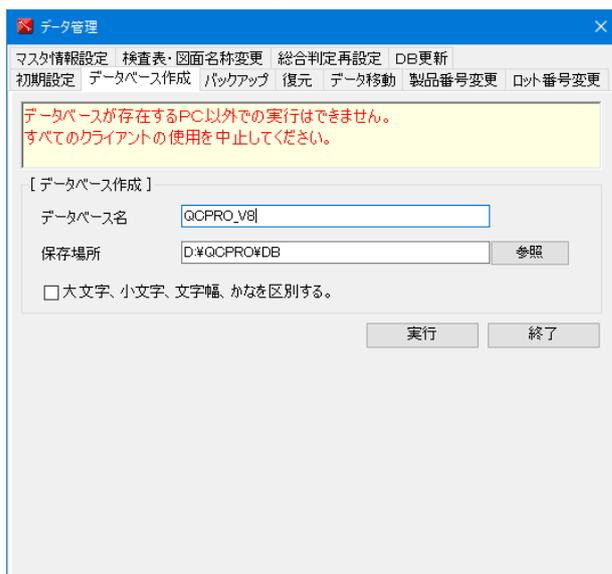
#### ① サーバ情報が正しく設定されているか確認する。

QC PRO のデータ管理を起動し、[初期設定]タブを選択して[サーバ情報]のサーバ名、認証、管理者ユーザ名を確認します。この時、管理者パスワードは再入力した方が確実です。



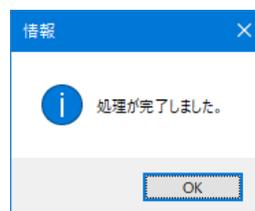
② 空のデータベースを作成する。

[データベース作成]タブを選択します。



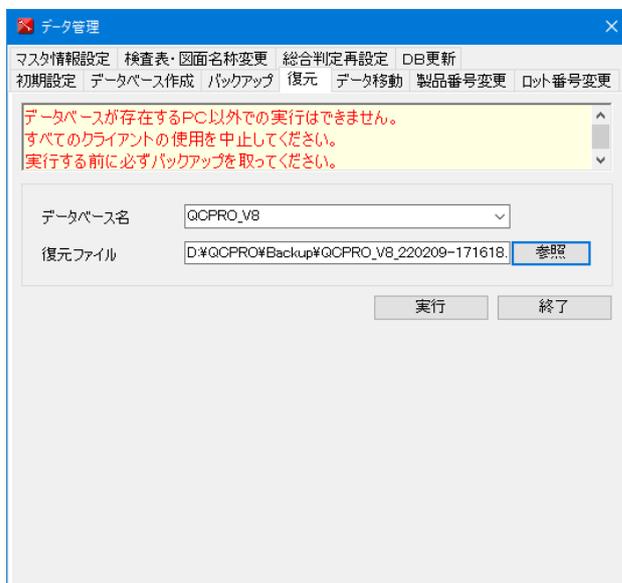
データベース名に元のデータベースと同じ名前を入力します。

[実行]ボタンをクリックして、「処理が完了しました。」とポップアップ表示されたら成功です。

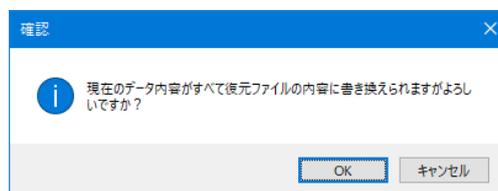


③ データベースを復元する。

[復元]タブを選択し、データベース名と復元ファイルを選択入力します。

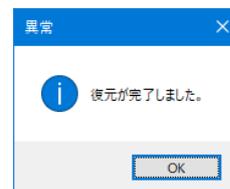


[実行]ボタンをクリックすると確認のポップアップが表示されますので、続けて[OK]ボタンをクリックします。



管理者パスワードを求められますので、パスワード入力して[OK]ボタンをクリックするとデータベース復元が開始します。

その後、「復元が完了しました。」とポップアップ表示されたら復元成功です。



④ 復元されたデータベースに接続する。

[初期設定]タブを選択し、[接続ユーザ情報]のデータベース名、ユーザ名とパスワードを入力し、[接続確認]ボタンをクリックします。

データ管理

マスク情報設定 検査表・図面名称変更 総合判定再設定 DB更新  
初期設定 データベース作成 バックアップ 復元 データ移動 製品番号変更 ロット番号変更

[サーバ情報]

サーバ名 (local) ▼  
認証 SQL Server ▼  
管理者ユーザ名 sa  
管理者パスワード \*\*\*\*\*

[接続ユーザ情報]

データベース名 QCPRO\_V8 ▼  
ユーザ名 sa  
パスワード \*\*\*\*\*

接続確認 データベース接続に成功しました。

保存 終了

画面内のテキストボックスに「データベース接続に成功しました。」と表示されたら、[保存]ボタンをクリックして接続ユーザ情報を保存します。